

		音 楽 研 究 会		部 会 記 録	
日時	平成29年 9月 8日 (水) 15:30~16:45				
部会名	研修部 授業実践部会			主任	今泉 美保
参加数	29名	司会	今泉 美保	記録	須田 直之
研 修 内 容	「鑑賞指導研修」 提案：森野 淳先生（洋光台第一小） 講師：柿崎隆子先生（西寺尾小） 場所：横浜市立桜岡小学校				
	【柿崎先生からのお話】 ○鑑賞の目標について 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">1・2年：育て、</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">3・4年：伸ばし、</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">5・6年：高め、</div> </div> 音楽を味わって聴くようにする。 →この学習の積み重ねを大切にしていくこと。 ○楽曲分析を行うにあたって ・鑑賞の楽曲分析を、〔共通事項〕を窓口にして行うこと。 ・鑑賞部会では、書いたことを付箋で貼り合せて楽曲分析を行う。 →そうすることで、要素同士の結びつきが見えてくる。そして、楽曲分析を通して教師自身がこの曲のよさや面白さは何かを考えることが大事。 ・「山の魔王の宮殿にて」演奏のよさや面白さとは？ →1つの主な旋律が反復する中で音色、や強弱、速度が変化していくこと ・いろいろなことを教えたくなるけれど、この曲なら「どの〔共通事項〕が、「誰でも聴き取ることができるか」を考えていくことが大事。 →その結果、どこに絞っていくのかが明確になると、指導と評価が一体となってくる。 →柿崎先生の場合、「山の魔王の宮殿にて」では、「旋律」「速度」「強弱」（できれば、音色も）を取り扱う。 ・音源自体が教材となるのでねらいと合っていないといけない。 →いろいろ聴いてみると、ねらいにあったものが見つかる。音源が教材になるので、いくつか聴いて吟味することが大切。 【森野先生の模擬授業】 ・曲名を言い、ペールギュントの話をし、全体を通して聴く。 ・「聴いて分かったこと」「感じ取ったこと」を時系列に合わせて板書する。 ・最初は、何もしないで（学習カードに記入をせず）聴いてもらう。 ○授業の展開は、 ①楽曲との出会い→②楽曲を聴き深めていく場面→③学習のふりかえり Q：「どんな感じがするでしょう」 ・最後の方は、怖い、何かが迫ってくる ・抜き足差し足				

- ・柿崎先生は、見通しをもつために「だいたい〇分ぐらいだよ」と伝えてから聴かせる。
- ・子どもが言う、音楽学的ではない言葉は「音楽的な言葉に教師が転換して使う」。
- 例) 小さい→弱い
- ・最初に聴く時は、子どもの様子をよく見て、音楽に反応している児童をよく捉えること。
- ・聴かせるときには、何を聴いて欲しいのかを伝えてから。
- ・本当にこれが繰り返されているか、を聴いてみる。
- ・活動の中（児童の動き）から、いい動きをしていたら、そこから切り取ったことを、次の学習活動に生かす。

→「なんで、そんなふうに体が動いたの？」

- ・ワークシートの手立てとしては、板書の内容。
- ・ワークシートの書く内容を、事前にお手本になるようなことを児童に言ってもらいたい。
- ・鑑賞を行うにあたって、楽曲の構造が見えるような板書の整理や主な旋律の楽譜の提示、楽器のカードなど視覚的な支援が大切である。
- ・聴き取って欲しいことのために、体を動かすなど、活動をする。

→体を動かすことは手段である。目的になってはいけない。

- ・この曲のこういうところがよかったなど思える授業が理想的である。

○評価について

- ・鑑賞のAは、どう決めるのか。

→聴いてく中で、深まっている児童はA。

→曲を解り切って動いている子など、総合的に判断して。

- ・聴き取れていない子がいたら、聴き取ることができている友達の動きをまねたり音符を指さしながら聴いたりしていく。

- ・音楽鑑賞財団で音源を探ることができる。その場に行けば、録音も可能である。
- ・前に学習した、他の分野や領域を想起させることでより鑑賞が深まることもある。